

# 保育所の使命と其の本領

猿江善隣館長 藤野井行仁

編輯者から特に託児所に關して所見を書けとの御申つけであるが、この問題は既に多數の先輩斯業研究者に依つて論述されてゐるので此處に事あらためて申上げることも考へつかないが、たゞ現場に居る者として一二の雜見を記して諸賢の御批判を願つて責をふせぐこととする。

輓近保育事業は長足の進歩をなし、都會は申すまでもなく、農村には農繁期保育所の經營を見るに至り、愈々兒童保護の重大性が提唱され、各方面に保育所が施設さるゝに至つたことは實に喜ばしいことで、ここに戰時體制下に於ける兒童保護の最も重要性あることは今更言をまたぬところである。然し、よく其の事業のもつ本領を使命の重大さを認知せざれば單に施設の数が増加しても格別の意義をなさぬであらう、こゝに深い思量を考察を以て之が運用をはかり、而して他の社會施設と共に體系的に整備され、有機的に健全な發達を遂げしめなければならぬ。

凡そ保育所は社會施設として行はれる事業なることを明瞭に意識し、その使命を本領に向つて所期の目的を達せねばならぬ、この兒童保護事業が社會問題の中でも極めて重要な事件として取扱はれることは、單に兒童が本來それ自身社會的弱者であり自己を主張し、自己を護る力のない弱きものであるといふ見地からばかりでなく、今日の幼き生命がやがて將來の國家社會の擔當者であり、理想社會の實現には、次代に來るべき社會に俟たねばならぬといふ意味合ひからして兒童保護事業が社會問題の對象となるべき事件の内容を持つことは當然のことであるが、尙更に一步進んで、此の兒童保護

事業が社會問題の中でも、勞働問題や社會事業の分野に於て、重要な事件として取扱はれ來つたことを見逃してはならない。即ち幼稚園と云ふ名稱の下に取扱はれる一般性の場合でなく、保育所の名稱の下に取扱はれて來る場合に於ける兒童保護事業は、普通呼ばれる兒童保護とか兒童愛護とかの言葉の中でも、一層重要な意義があることは多言を要するまでもないのである。即ち保育所事業として取扱はれる場合は一般性の幼稚園事業の範圍外に事業そのものが持つ根本的な事件を没却することは出来ない。即ち幼兒を通じての家庭の保護指導といふ問題に無關心であることは出来ない。若し保育所の運営に於て幼兒を通じての家庭に對する保護指導の役目が織り込まれてなかつたならば、保育所の存在の意義は大方失はれたと云つてもよい。こゝに幼稚園經營と保育所經營の上に於て社會問題としての重要性の相違があるのである。然し、幼稚園と保育所とを區別して考へることは間違ひであり本質的に考へて差別すべきでなく、同一に取扱はうとする向もあるが、それは保育所を單に、保育事業の立場からのみ見た取扱ひ方で、施設そのもの、出發の動機を見のがし、保育者といふ立場から兒童の世界ばかりに重心を置いて考へた一方的見方をした結果に外ならないのである。保育所が、家庭經濟の補助とか、勞働能率の増進とか云ふ經濟的な事件を對照して施設せられた根本的動機を考へる場合、之を一般性の幼稚園と同一に取扱ふことは無理があらう。幼稚園は保護者が自ら進んで、幼兒に對して保育を受けさせやうとすることに出發したもので積極的であるが、保育所は所謂家庭の生活保持のために、手足纏ひとなる子供を預けて勞務に従事し、少しでも生計状態に餘裕を得やうとする消極的なものである。斯様に幼稚園と保育所とはその託兒することの動機に於て相違してゐる、即ち再應單的に云へば幼稚園は兒童そのものが事業の對象であり、保育所は家庭全體が事業の對象であるといふことが出来るのではあるまいか。但し茲に注意を忘れてはならぬことは保育者即ち保育従事者の立場から考へた観方はさうかといふことである、これは上述の如き單的な所見は事業當事者と保護者の立場から見た場合の所論であつて、保育

者そのものゝ立場からすればそれが假令幼稚園の幼児であらうと、保育所の幼児であらうと、そこに保育上に於ての相違のあらう筈はないのである、一應相違のあると申したのは、保育所に於ける保育従事者には幼児を通じての家庭といふ問題が、幼稚園の保育従事者よりも一層重要な要件となつてゐることを失念しないために力説したのである。

斯様に觀て來た時保育所事業經營には、一面保育事業といふ内容を持つ外に防貧的保護事業といふ重大な意義が含まれてゐる。茲に於て保育所の事業對象となるべき家庭の選擇は、その事業の效否を決する條件となるのであるから、保育所の經營及従事者にまつては保育以外に當然社會調査といふことが肝要になつて來るのである。社會調査の結果、得られた事業對象者に對しては恒に保護と指導とが必要であるばかりでなしに、保育所を中心とした地區の動きに深き關係を持たなければならぬのである。

勿論家庭の子供のための幸福を増進し、子供のための社會的要件を改善し、家庭經濟の向上につとめることは保育所のみが受持たねばならぬなきと思ひ上ることは慎むべきことで、それを特に専門とする所の社會事業も存在するわけではあるが、これ等のことを實行して行く上に於ては保育所が持つ所の特別な便宜があるのである。保育所は保育そのもの以外に、各種の仕事が派出するので、否寧ろ生れて來る様に努力することが保育所の機能の充實を圖ることになる、これは今日、保育所と稱せられ、隣保館と唱へられ、方面館と名づけられる施設の多くは、保育事業を中心として、其の地區に於ける環境の要求に應じて生れた事實に照しても明かである。

即ち保育所は家庭に對して、他の事業の如く單に外部から警告を發し、注意を喚起するといふのミ違つて、其の子供を中心として現に親と協力の結付きにあり、其の子を通じて親の心に入り込んでゐるから漫然と抽象的な一般的な注意條項をならべるのでなくて、其の子に就いて個別的な具體的な注意がなされるのである。だから保育所の保母達程其の子に就いて實際的な懇な且つ切實な關係を以て子供のために親と語れる人は無いと思ふ、即ち保育所の保母は所謂教育的幼稚園

の場合違つて、何處までも親らしい世話のやき方も積極的に出来、母親に對する教育力も持ち得るのである。斯の如く家庭に即應した交渉が出来るだけに十分の思慮を以て、家庭連絡のために、家庭訪問なり生活向上に對する諸種の會合や人事衛生等にまで關心を持たしめ、兒童の愛を通じて極めて自然に連絡することにあくまで細心の注意を怠つてはならぬ。

斯の如く保育所の使命や本領が納得されたとしてもかゝる使命達成の第一要件として我々はそれに従事する人のことを充分考へなければならぬ。それは畢竟保育の第一線に立つ保姆に適當なるよき人を得るや否やになることである。如何に立派な設備が出来ても此の一事が手ぬかりであること、保育所は何等の効果をも現出することが出来ない。保育所の保姆は家庭に代りて絶對的の世話をするものであつて、この位複雑にして勞力のかゝる仕事はない。殊に幼い子供、羸弱なる子供の取扱ひになることの折れることが想像以上である、大便小便の世話は勿論頭の腫物等に至るまで、健氣に之を手當せねばならぬ、如何なる面倒なことも厭はず、よく困難に堪へ偏へに兒童のよくなることをもつて、其父母と共に喜び、心中無上の喜びとするものでなければならぬ、現時の各種の事業が型は一通り整つても、其處に人を得られぬためにつまづきの多きを見る、保育所に於ても其の感を深くするのである。特に戦時下にある保育所の使命は平時以上に重大さを持つたされる時、保育所に於ける給食の問題、健康相談の問題、家庭調査の問題、人事相談の問題、母姉會の問題等々に思ひを致す時一層人的要素の充實が切實になつてくる、吾人現業に居る者の三思反省は勿論、保姆養成機關の當事者、斯業に係を持つ人士の特別な考慮を願ひたいものである。本館に於ける家庭調査、人事相談、給食實施の狀況等につき紹介し諸賢の御教導御批判を願ひたいのであるが、紙數の制限もあるので、これを他日にゆづることにするが、これ等の實施現況につき苦慮致し居る點もあり、御指導を仰ぎたき數々もあるので、各位御閑暇の際は是非御來館下され——御來館下さる場合は市電住吉町一丁目停留所下車北百米で至極便利な處です——地域の狀況を對比し、實際について御教示下さらんことを切願するにも各位の示唆により斯業に一段々精進致したいを念願しつゝ擱筆する。